

施策マネジメントシート1(22年度目標達成度評価)

作成日 平成 23 年 5 月 30 日  
更新日 平成 23 年 7 月 12 日

|        |       |   |     |                     |       |                         |     |       |
|--------|-------|---|-----|---------------------|-------|-------------------------|-----|-------|
| 総合計画体系 | 政策No. | 1 | 政策名 | 人々が安全に安心して暮らせるまちづくり | 施策統括部 | 都市建設部                   | 部長名 | 坂口 和也 |
|        | 施策No. | 5 | 施策名 | 道路ネットワークの充実         | 施策主管課 | 建設課長                    | 課長名 | 米澤 俊一 |
|        |       |   |     |                     | 関係課   | 総務課、企画課、農政課、都市計画課、商工振興課 |     |       |

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) \* 人や自然資源等  
市内道路とその利用者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)  
渋滞をなくし、通行がスムーズに行えるようにする

成果指標の測定企画【実際にどのように実績値を把握するか】  
A、渋滞箇所数は建設課にて把握可能。  
B、道路利用に関して満足している人の割合は意識調査にて把握。(満足は①と②の割合で見る)  
設問:「あなたは合志市内の道路はスムーズに移動出来ると思いますか? (市内での移動に関して)  
選択肢:①とても思う ②やや思う ③あまり思わない ④全く思わない  
(市外への移動に関して)  
選択肢:①とても思う ②やや思う ③あまり思わない ④全く思わない

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) \* 数字は記入しない

| 名称              | 単位 |
|-----------------|----|
| A 道路延長(国県市道・農道) | m  |
| B 人口            | 人  |
| C               |    |

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) \* 数字は記入しない

| 名称                           | 単位 |
|------------------------------|----|
| A 渋滞箇所数                      | 箇所 |
| B 道路利用に関して満足している人の割合(市内の移動)  | %  |
| C 道路利用に関して満足している人の割合(市外への移動) | %  |
| D                            |    |
| E                            |    |

2 指標等の推移

| 指標名            | 単位               | 数値区分    | 16年度    | 17年度    | 18年度    | 19年度    | 20年度    | 21年度    | 22年度    |         |
|----------------|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 対象指標           | A                | m       | 見込み値    |         |         |         | 480,142 | 480,719 | 481,296 | 481,873 |
|                |                  | 実績値     | 478,412 | 479,223 | 479,565 | 480,912 | 482,687 | 487,810 | 495,287 |         |
|                | B                | 人       | 見込み値    |         |         |         | 53,909  | 54,518  | 55,124  | 55,732  |
|                |                  | 実績値     | 52,085  | 52,695  | 53,303  | 54,047  | 54,407  | 54,856  | 55,828  |         |
|                | C                |         | 見込み値    |         |         |         |         |         |         |         |
|                |                  | 実績値     |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 成果指標           | A                | 箇所      | 目標値     |         |         |         | 10      | 10      | 10      | 9       |
|                |                  | 実績値     | 10      | 10      | 10      | 10      | 10      | 10      | 10      |         |
|                | B                | %       | 目標値     |         |         |         | 60.5    | 60.5    | 60.5    | 63.0    |
|                |                  | 実績値     |         |         | 60.5    | 57.9    | 58.7    | 59.5    | 60.1    |         |
|                | C                | %       | 目標値     |         |         |         | 62.1    | 64.0    | 64.0    | 64.0    |
|                |                  | 実績値     |         |         | 62.1    | 60.1    | 62.3    | 62.3    | 62.4    |         |
|                | D                |         | 目標値     |         |         |         |         |         |         |         |
|                |                  | 実績値     |         |         |         |         |         |         |         |         |
|                | E                |         | 目標値     |         |         |         |         |         |         |         |
|                |                  | 実績値     |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 事務事業数          |                  | 本数      |         |         | 54      | 54      | 45      | 57      | 22      |         |
| 施策コスト          | 事業費              | 国庫支出金   | 千円      |         |         | 89,776  | 68,032  | 82,500  | 49,659  | 100,766 |
|                |                  | 都道府県支出金 | 千円      |         |         | 917     | 917     | 917     | 0       | 0       |
|                |                  | 地方債     | 千円      |         |         | 288,240 | 230,161 | 221,560 | 148,100 | 376,000 |
|                |                  | その他     | 千円      |         |         | 16,570  | 6,626   | 25,450  | 20,046  | 1,235   |
|                |                  | 繰入金     | 千円      |         |         | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
|                |                  | 一般財源    | 千円      |         |         | 112,972 | 104,001 | 66,700  | 190,576 | 306,905 |
|                | 事業費計(A)          |         | 千円      | 0       | 0       | 508,475 | 409,737 | 397,127 | 408,381 | 784,906 |
|                | (A)のうち指定経費       |         | 千円      |         |         | 0       | 0       | 0       | 24,101  | 12,994  |
|                | (A)のうち時間外、特殊勤務手当 |         | 千円      |         |         | 0       | 915     | 12,021  | 59      | 396     |
|                | 人件費              | 延べ業務時間  | 時間      |         |         | 15,238  | 20,618  | 16,160  | 7,389   | 26,461  |
| 人件費計(B)        |                  | 千円      |         |         | 60,951  | 82,470  | 64,639  | 29,399  | 109,019 |         |
| トータルコスト(A)+(B) |                  | 千円      | 0       | 0       | 569,426 | 492,207 | 461,766 | 437,780 | 893,925 |         |

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件) | スムーズな通行を図るため、交通渋滞の原因となっている交差点に重点を置き、国道・県道の幹線道路や主要市道の改良を行うと伴に幅員の狭い生活道路の解消を行う。<br>渋滞箇所数(A)について、目標値は、スムーズな通行を図るため交通渋滞の原因となっている交差点に重点を置き、右折レーンの設置および変則交差点の解消により、22年度には、9箇所になると設定した。<br>道路利用に関して満足している人の割合(市内の移動)(B)の目標値は、国道、県道が渋滞箇所の主なものであり、国、県への働きかけを強化し、狭い道路幅員の解消、右折レーンの設置を進めることで、22年度には63.0%になると設定した。<br>市外への移動に関して満足している人の割合(C)について、目標値は、20年3月に北バイパスが387号線と接続され、市外への移動がスムーズになり、22年度には64.0%になると設定した。<br>道路整備には、土地所有者、住民の理解と協力が前提である。 |
| 基本計画期間における施策の方針                    | ・土地利用基本計画に基づいて主要市道の整備計画を策定し、計画的な整備を行う。<br>・国県道の整備を国、県に働きかけていく。  |
| 全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携         | ・特になし   |

## 施策マネジメントシート2(22年度目標達成度評価)

道路ネットワークの充実

### 3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)  
 ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)  
 ・土地所有者、住民の理解と協力。  
 ・住民は公共交通を出来る限り利用する。  
 ・事業所はフレックス制度等の導入。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)  
 ・市は渋滞解消のための方策立案。土地所有者、住民への説明。用地買収及び工事の実施。道路の維持管理。  
 ・県と連携し、幹線道路ネットワークの形成、用地交渉などに取り組む。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成23年度を見越して)  
 ・人口が増加傾向にあり、公共交通がそれほど充実していないので、渋滞箇所が増える可能性がある。  
 ・11年度から用地の登記法が変化し、一つの用地を買収する場合の手続きに時間を要するようになった。  
 ・地価の下落が続いている状況から、国は道路占用料の改定(引き下げ)を行っており、これに伴い市では平成21年3月に条例を改正し、4月から施行した。土地単価の変動に伴う用地買収が厳しくなる。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?  
 ・工業団地の事業所からは、通勤・退勤時の渋滞解消のための要望が強い。  
 ・住民からは生活道路の道路幅員が狭いという不満の声が寄せられている。騒音・振動等の苦情が寄せられる中、生活道路と幹線道路の区別化を求められている。  
 ・議会からは渋滞箇所の解消対策への要望がある。市域道路ネットワークの整備が求められている。  
 ・市民ワークショップでは「交通が渋滞する」「高速、鉄道、道路とのアクセスが悪い」との意見があった。  
 (平成22年度の施策評価における総合政策審議会意見)  
 1. 道路事業など市民に進捗状況など伝わりにくい。積極的な情報の開示公表を行うことが必要である。  
 2. 幅員の狭い生活道路の解消・市内移動の道路網整備を行うための具体策が見えない。  
 3. 幹線道路、生活道路の維持管理(草刈りや補修など)について、国や県と連携した取組みを進める必要がある。  
 (平成22年度の施策評価における議会意見)  
 1. 国県道整備の早期化に向け、重要改良点を明確にし、進捗及び課題の整理を行うべき。  
 2. 地権者との更なる信頼関係の強化を図ること。

### 4 施策の評価

#### ① 施策の目標達成度(22年度目標と実績との比較)

A → ×【渋滞箇所数】  
 : 渋滞箇所の削減に至っていない。  
 B → △【道路利用に関して満足している人の割合(市内の移動)】  
 : 目標値63.0%に対し実績値60.1%であり、達成度は95.4%であった。  
 C → △【道路利用に関して満足している人の割合(市外への移動)】  
 : 目標値64.0%に対し実績値62.4%であり、達成度は97.5%であった。  
 D → 【】  
 :  
 E → 【】  
 :  
 F → 【】  
 :

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A: 市内10箇所の渋滞箇所の内、5箇所は事業化されているが、まだ完成した交差点はない。現在工事施工中の「JT前交差点」は平成23年度完成し、「御代志駅前交差点」は平成25年度完成予定。  
 B: 市内道路網では、東西の横軸となる路線が軟弱であり、道路に対する騒音、振動、路盤悪化などの苦情も寄せられていることや慢性化しつつある渋滞等も起因しているものと考えられる。  
 C: 市外への移動路線は、国県道が主であるが国県道へのアクセス道路及び国県道の渋滞が発生していることが原因と考えられる。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成

#### ② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

(1) 22年度経営方針である、「市内の主な渋滞箇所は、国道・県道であり、渋滞解消に向けて、引き続き国・県に働きかけていく。」については、市内10箇所の渋滞箇所の一つである御代志駅前交差点改良事業を平成18年度より県と合同で進めており、JT前交差点の改良についても平成23年度実施予定。今後も、中九州・地域高規格道路の整備や国県道沿線で渋滞の要因となっている箇所の交差点改良について、国・県への要望を行なっていく。  
 「産業物流の促進と市内横軸の流通強化を図るため、主要な幹線道路の構築にさらに取り組んでいく。」については、県道大津植木線バイパスは、路線測量を終え、今後事業説明、用地測量を実施し用地交渉に入る予定。スマートICへのアクセスとして、御代志駅前交差点改良事業で取り組んでいる市道御代志野々島線の一部施工及び大池植木線道路改良事業の用地、補償交渉を行ない、着実に進めている。  
 「生活道路の幅員拡充については、主に通学路を主体に取り組んでおり、要望数が多いため、市道の改良については、引き続き安全確保の観点から優先順位を付けて取り組んでいく。」については、交通安全対策の観点から、前年度に引き続き建山2号線、若原線、須屋線、中央校線の歩道設置を実施した。  
 「道路整備に対する要望対応事業」については、地域の各区総会等で要望順位を決めてもらうことを徹底し、優先順位を付けた整備を進める。」については、緊急性、有益性を考慮して対応し、用地確保が必要なものや即時整備対応が困難なものなどについては、計画的に整備を進めていく。  
 「用地交渉に携わる担当職員の資質向上を図る。」については、研修を通じて用地・補償交渉に関する知識を深め、情報収集に努めた。  
 (2) 事務事業貢献度評価の結果では、平成22年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、市道改良事業と社会資本整備総合交付金事業があげられ、貢献した事務事業には市道舗装事業があげられた。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- (1) 市域内の主要幹線道路の渋滞解消を含めた計画的な道路網の構築。
- (2) 用地買収と家屋補償に伴う、職員の専門知識の習得。
- (3) 用地買収に伴う土地所有者、住民の理解と協力。
- (4) 狭い道路幅員の解消、右折レーンの設置。
- (5) 土地利用計画検討委員会(仮称)で、総合的な土地利用の検討と併せた道路ネットワークの計画。

④ 第1期基本計画の振り返り、総括

【第1期基本計画の方針】

- ・土地利用基本計画に基づいて主要市道の整備計画を策定し、計画的な整備を行う。
- ・国県道の整備を国、県に働きかけていく。

【方針に対する振り返り】

市内道路を車や歩行者が安全でスムーズに通行できるよう、市道の維持管理に努めるとともに、道路改良、歩道設置、舗装事業等を実施してきた。用地の確保や市の財政事情から若干遅れ気味ではあるが、おおむね計画どおり進んできた。

また、朝夕の渋滞が発生している国・県道を中心とした主要幹線の交差点改良や県道大津植木線バイパス事業、スマートインターチェンジの設置等を国・県へ働きかけを行なった結果、事業化されその一部は実施中である。中九州・地域高規格道路の早期整備について、要望活動を行なってきた。

5 施策の22年度結果に対する審査結果

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成23年7月12日)

- ・地区計画及び集落内開発における道路網の整備については、市が将来を見越したうえで主体的に関わっていく必要がある。
- ・近隣市町との広域連携道路について、更に協議を進めていく必要がある。

② 総合政策審議会での指摘事項平成23年 8月 10日、17日、24日まとめ)

- ・道路事業の改良計画や工事の進捗状況について、市民へわかりやすい方法で知らせること。
- ・歩行者(子ども連れ、ベビーカー、車イス)が安心安全に通行できるように、歩道の整備を計画的に実施すること。
- ・公共交通の拠点化と併せて、道路網の整備をすすめること。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成23年9月30日)

- ・通学道路の整備を成果指標に加え、横断的な子育て支援を図ること。
- ・主要幹線道路の渋滞解消について、ソフト面の対策を含めて近隣市町、県振興局と連携し、改善に努めること。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成24年度合志市経営方針(平成23年10月12日)

1. 土地利用計画に基づいた市道の幹線道路網の整備計画を策定する
2. 市内の主な渋滞箇所は、国道、県道であり渋滞解消に向けて引き続き国・県へ働きかける
3. 通学路となっている市道の安全施設整備に努める
4. 老朽化した生活道路の改修に努める。

施策マネジメントシート3(22年度目標達成度評価)

|       |              |         |     |
|-------|--------------|---------|-----|
| 基本事業名 | 13 計画的な道路の整備 | 基本事業担当課 | 建設課 |
|-------|--------------|---------|-----|

|    |           |    |                   |
|----|-----------|----|-------------------|
| 対象 | 幹線道路、生活道路 | 意図 | 土地利用に合った道路網が整備される |
|----|-----------|----|-------------------|

| 成果指標名            | 単位 | 数値区分 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|------------------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A 整備済延長/計画延長×100 | %  | 目標値  |      |      |      | 31.0 | 45.0 | 70.0 | 100  |
|                  |    | 実績値  |      |      | 15.0 | 23.0 | 28.9 | 36.6 | 56.4 |
|                  |    | 目標値  |      |      |      |      |      |      |      |
|                  |    | 実績値  |      |      |      |      |      |      |      |
|                  |    | 目標値  |      |      |      |      |      |      |      |
|                  |    | 実績値  |      |      |      |      |      |      |      |

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

人口増加により、主要幹線道路の交通量が増え、交通渋滞や歩行者の通行に支障のある道路が発生する恐れがある。今後、通勤や営業車両等の増大を見込み土地利用等を加味した効率的な道路計画を立案し実行していかなければならない。しかし、最近では用地の確保が難しい状況になっており、19年度、20年度をそれぞれ+10%、21年度を+15%、22年度を+30%とした。目標値としては、用地取得を重点的に行なうことで、計画どおりの進捗を見込み19年度31%(+4,900m)、20年度45%(+4,471m)、21年度70%(+7,869m)、22年度には+9,398mとして22年度の目標値を100%とした。

8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題

本年度も道路改良、歩道設置、舗装事業等を実施してきた。用地の確保や市の財政事情から若干の遅れはあるが、おおむね計画どおり進んできた。道路改良事業等を進める上では、用地の確保が不可欠であり、今後とも市民への理解と協力が得られるよう努力していきたい。

|       |            |         |     |
|-------|------------|---------|-----|
| 基本事業名 | 14 道路環境の整備 | 基本事業担当課 | 建設課 |
|-------|------------|---------|-----|

|    |           |    |                    |
|----|-----------|----|--------------------|
| 対象 | 幹線道路、生活道路 | 意図 | 渋滞がなくなり、スムーズに通行できる |
|----|-----------|----|--------------------|

| 成果指標名   | 単位 | 数値区分 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|---------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A 渋滞箇所数 | 箇所 | 目標値  |      |      |      | 10   | 10   | 10   | 9    |
|         |    | 実績値  | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   |
|         |    | 目標値  |      |      |      |      |      |      |      |
|         |    | 実績値  |      |      |      |      |      |      |      |
|         |    | 目標値  |      |      |      |      |      |      |      |
|         |    | 実績値  |      |      |      |      |      |      |      |

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

スムーズな通行を図るため交通渋滞の原因となっている交差点に重点を置き、国・県道の幹線道路や主要市道の改良を行うとともに幅員の狭い生活道路の解消を行う。渋滞箇所数については、現状の水準で推移すると考える。目標値は、スムーズな通行を図るため交通渋滞の原因となっている交差点に重点を置き、右折レーンの設置および変則交差点の解消により、22年度には、9箇所になると設定した。

8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題

市内10箇所の渋滞箇所の一つである御代志駅前交差点改良事業を平成18年度より県と合同で進めており、JT前交差点の改良についても平成23年度実施予定。今後も、国県道沿線で渋滞の要因となっている箇所の交差点改良について、国・県への要望を行っていく。

|       |               |         |     |
|-------|---------------|---------|-----|
| 基本事業名 | 15 適正な維持管理の推進 | 基本事業担当課 | 建設課 |
|-------|---------------|---------|-----|

|    |           |    |                  |
|----|-----------|----|------------------|
| 対象 | 幹線道路、生活道路 | 意図 | 適切に管理されて安全に通行できる |
|----|-----------|----|------------------|

| 成果指標名  | 単位 | 数値区分 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|--------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A 苦情件数 | 件数 | 目標値  |      |      |      | 220  | 210  | 200  | 190  |
|        |    | 実績値  | 253  | 223  | 212  | 216  | 133  | 76   | 52   |
| B 対応率  | %  | 目標値  |      |      |      | 75.0 | 77.0 | 79.0 | 80.0 |
|        |    | 実績値  |      |      | 73.1 | 84.7 | 85.7 | 82.9 | 90.4 |
|        |    | 目標値  |      |      |      |      |      |      |      |
|        |    | 実績値  |      |      |      |      |      |      |      |
|        |    | 目標値  |      |      |      |      |      |      |      |
|        |    | 実績値  |      |      |      |      |      |      |      |

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

人口増加により、主要幹線道路の交通量が増え、交通渋滞や歩行者の通行に支障のある道路が発生する恐れがある。苦情件数は、年々人口並びに交通量の増加により、増加していくものと推測されるが、道路耐用年数等の補修を含めた総合的な道路整備を進めることにより、22年度の目標値は190件とした。対応率の目標値については、道路の整備が進められ、積極的に苦情解決に努めることにより19年度を75%として以降年々高くなるものと見込み22年度で80%とした。

8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題

苦情件数は、年々減少している。このことは、道路の維持補修等の対応や歩道設置等による道路整備が成果を得ているものと考えられる。道路等に対する苦情は、計画的な道路網の整備と相対している関係から、今後とも快適な生活環境を目指して道路網の整備や維持補修に努めていく。